

授 業 科 目 名	教育相談	教 員 名	相 戸 晴 子	免 許 ・ 資 格 と の 関 係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	講義	担 当 形 態	単 独	卒 業 要 件	保育士	
科 目 番 号	SEI202	配 当 年 次	2 年 前 期		こども音楽療育士	
単 位 数	2 単 位			小 幼 コース	必修	
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園及び小学校）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
一 般 目 標	<p>(1)教育相談の意義と理論 学校における教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>(2)教育相談の方法 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。</p> <p>(3)教育相談の展開 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。</p>					
到 達 目 標	<p>(1)教育相談の意義と理論 1)学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2)教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。</p> <p>(2)教育相談の方法 1)幼児、児童及び生徒の不応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 2)学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 3)受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。</p> <p>(3)教育相談の展開 1)職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 2)いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 3)教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 4)地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</p>					
授 業 の 概 要	<p>教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。</p> <p>幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） ワークショップ「相談される教師になるには」（目標(1)-1))</p> <p>第2回：教育相談とは 教育実践としての学校における教育相談の実際の姿を通して、学校や園における教育相談の意義と課題について学ぶ。（目標(1)-2))</p>					

	<p>第3回：カウンセリングの理論と実際 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングを理解し、実際の関わりを通して教育相談の姿勢や技法の基礎を学ぶ。(目標(2)-2), 3))</p> <p>第4回：児童・生徒の問題の理解と対応 問題の意味を理解し、問題の種類と発生メカニズム、また問題対応と援助、およびその留意点について学ぶ。(目標(2)-1))</p> <p>第5回：不登校の理解と対応(1) 不登校の要因と心理的メカニズムや「不登校」の状態と回復過程を具体的事例から理解する。不登校児童・生徒への支援のあり方を考え、そのスキルを修得する。(目標(3)-1), 2))</p> <p>第6回：不登校の理解と対応(2) 不登校児童・生徒への支援のあり方を実際の事例から学び、考え、そのスキルを修得する。(目標(3)-1), 2))</p> <p>第7回：いじめの理解と対応(1) いじめの定義をふまえ、いじめの典型的事例、過去のいじめ事件からいじめの理解を深める。(目標(3)-1), 2))</p> <p>第8回：いじめの理解と対応(2) いじめに対する教育者としての対応について具体的事例をもとに考え、そのスキルを修得する。(目標(3)-1), 2))</p> <p>第9回：学級崩壊の理解と対応 学級崩壊の原因や背景、学級崩壊をめぐる子どもと教師の姿や学級崩壊からの回復過程の事例を学び、学級崩壊への教育者としての対応を考え、そのスキルを修得する。(目標(3)-1), 2))</p> <p>第10回：反社会的問題行動の理解と対応 非行の心理的背景をふまえ、行動科学としての非行理解を行い、社会防衛と少年保護の観点から、反社会的問題行動に対応する、スキルを修得する。(目標(3)-1), 2))</p> <p>第11回：開発的カウンセリング 開発的カウンセリングとは何かを学び、実際の事例からカウンセリングの学びのプロセス構造についての理解を深め、開発的カウンセリングを行う実践力を修得する。(目標(2)-2), 3))</p> <p>第12回：保護者に対する援助 現在社会における家族とは何か、また期待される家族の発達課題をふまえ、保護者に対する援助の課題、親子関係の援助について、そのスキルを修得する。(目標(3)-1))</p> <p>第13回：校内での協力体制 校内に協力体制をつくる重要性を理解し、学級担任と学年会、校長の協力、養護教諭との協力、またスクールカウンセラーなどとの協力の仕方を学ぶ。(目標(3)-3))</p> <p>第14回：他機関との連携 連携を必要とする背景をふまえ、連携する機関や連携のためのコーディネーターとしての専門性を学び、よりよい連携のために教育者として必要なスキルを修得する。(目標(3)-4))</p> <p>第15回：総括 期末試験</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>レポート提出20%、発表20%、期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキスト箇所を伝えるので、入念に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。</li> <li>・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業で提出すること。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で使った資料やノートのファイル管理を徹底すること。</li> <li>・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。</li> </ul>
テキスト	一丸藤太郎・菅野信夫 編『学校教育相談 (MINERVA教職講座10)』 ミネルヴァ書房 2002年
参考書・参考資料等	文部科学省『生徒指導提要 第4版』 平成22年3月 庄司一子 監修／杉本希映 他編『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』 ナカニシヤ出版 2010年 『小学校学習指導要領 (平成29年告示)』 『幼稚園教育要領 (平成29年告示)』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年告示)』 『保育所保育指針 (平成29年告示)』
担当者からのメッセージ	自学自習、ディスカッション、発表など積極的なアクティブラーニングに取り組むこと。
オフィスアワー	水・金曜日 14時～17時 その他の日時はメール等でアポイントを取って来室すること。